

10 危険物類

【関連章第4章2】

事例2 「建築工事現場敷地内で自然発火により出火した火災」

出火時分 11月 23時ごろ

用途等 建築工事現場敷地内

被害状況 角材5本等焼損

概要

この火災は、建築工事現場の敷地内から出火したものです。

出火原因は、建築工事現場の敷地内に置かれていた生石灰が入った袋に穴が開いていたことで、雨水が混入し、生石灰が雨水との化学反応で発熱したことにより、付近の木材等から出火したものです。

建築工事現場付近を歩いていた通行人が煙臭さを感じたため、周囲を確認すると、建築現場の敷地内で炎が上がっているのを発見しました。

火災を発見した通行人は、近くの消防署に駆け付けて火災を知らせました。

教訓等

生石灰は、別名を酸化カルシウム（ CaO ）といい、水との接触若しくは空気中の水分を吸収することで発熱する「禁水性の物質」です。水を加えると発熱するため、可燃物と接触していると火災に至る可能性があります。取り扱う際には製品の概要書をよく読み、保存方法や取り扱い方法に注意する必要があります。

また、生石灰のうち、酸化カルシウムの含有量が80%以上のものを500kg以上取り扱う場合は、管轄消防署に届出する必要があります。該当する際にはお近くの消防署へお問い合わせ下さい。（危険物の規制に関する政令第1条の10）



写真 10-3 工事現場内の延焼状況

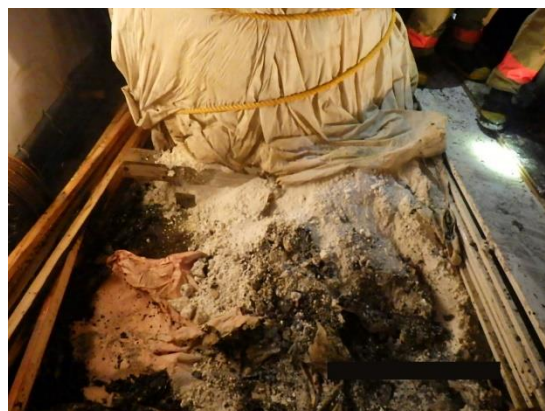


写真 10-4 出火箇所付近の状況